



「まあとに当たるかな!？」

11月20日に弟子屈小学校で行われた「ましゅうランド・たのしいまといれゴー」での1コマ。町内の小学1・2年生がこの日のために準備し、町内の幼稚園・保育園の園児を招待。それぞれのコーナーで一生涯懸命おもてなしをしていました。

(関連記事27ページ)

Public relations magazine

2018.12 No.772

てしかが

主な内容

- 弟子屈町表彰式……………②
- 12月は町税等完納強調月間です……………④
- えこまち通信……………⑦
- 行政評価「町民アンケート」結果……………⑧
- 放課後児童クラブが移転へ……………⑭
- 「むかしむか史」連載終了へ……………⑳

むかしむか史 (338)

てしかが歴史写真館<sup>212</sup>



武四郎さんの著作は、町図書館でも借りられます。

遺したかったものを、さらに未来へ

—松浦武四郎メモリアルイヤー—

武四郎さんは生涯に6回、蝦夷地を訪れています。現在の弟子屈町域にも来た1858年が最後となりましたが、前半3回は一個人として、後半3回は江戸幕府に雇われた役人という立場です。

ほどなく明治維新を迎え、新政府から蝦夷地に替わる新名称を求められます。提出した6案のうち、採用された「北加伊道」(後に「北海道」と改字)とは、「アイヌの人たちは自分たちを“カイノ”と呼び合う」ことから付けたといわれます。提出日の7月17日(旧暦)は、昨年「北海道みんなの日」となりました。アイヌ語地名に基づいて上申した国名や郡名は、現在も振興局名などに使われています。「北海道の名付け親」とされる由縁です。

文字を持たなかったアイヌの人たちが暮らす地について、詳細に書かれた出版物は、窮状を訴える告発本でもありました。開拓判官という重要ポストに就きながらも持ち前の正義感は揺らぐず、翌年に早くも辞職。以後、北海道の地を踏むことはありませんでした。

心せよえみしもおなじ人にしてこの国民の数ならぬかは

2008年、武四郎さんの資料が国の重要文化財に指定されました。甚大な自然災害や戦禍を乗り越え、守り抜いて来たご子孫らのご苦勞があってこそ。武四郎さんに劣らぬ熱意の継承が形となって今、私たちの目の前にあるのです。

アイヌの人たちと心身で交わり続けた武四郎さんの名が、町民の間でも語り継がれることを祈りつつ、1年に渡る連載を終えます。

てしかが郷土研究会 (斎藤)

※今月号で連載が終了します。郷土研究会からは30ページをご覧ください。

てしかが 2018.12

毎月1回発行 発行/弟子屈町 編集/まちづくり政策課 ☎482-2913 ☎482-2696 〒088-3292 弟子屈町中央2丁目3番1号 URL <http://www.town.teshikaga.hokkaido.jp/>